

業績修正について



常陽銀行

19年度第3四半期の状況(単体)

本業のもうけを示すコア業務純益は、預貸業務の資金利益増加を主因に堅調に推移(前年同期比+7%)。しかし業務純益、経常利益、四半期純利益は、有価証券価格の下落に伴う減損処理、及び貸倒れに備えた引当金の増加等により前年同期比減少(△26~△45%)。

(億円)	平成19年度 第3四半期	平成18年度 第3四半期	増減(△) 前年同期比
業務純益	330	446	△ 115
コア業務純益	409	382	27
業務粗利益	866	944	△ 77
うち資金利益	821	780	41
うち役務取引等利益	113	116	△ 2
うちその他業務利益	△ 72	44	△ 116
経費	538	521	17
人件費	270	269	0
物件費	241	224	16
一般貸倒引当金繰入(A)	△ 3	△ 24	20
臨時損益	△ 30	△ 64	33
うち不良債権処理額(B)	103	75	27
うち株式等損益	54	0	55
経常利益	299	382	△ 82
特別損益	△ 5	14	△ 19
うち償却債権取立益(C)	15	15	0
うちその他の特別損失	17	0	17
税引前四半期純利益	294	397	△ 102
四半期純利益	128	236	△ 107
実質信用コスト(A)+(B)-(C)	84	36	48

増減率

△26%

+7%

△8%

△21%

△45%

○資金利益(+41億円)
預貸金利息差の拡大を主因に、増加。

○その他業務利益(△116億円)
有価証券の価格下落による減損処理(△104億円)を主因に、減少。

○不良債権処理額(+27億円)
貸倒れに備えた引当金の増加により、貸倒引当金が増加。

平成19年度業績見通し(単体)

有価証券の将来の時価下落と、貸倒れ増加に備えた引当金の増加を見込む。

○19年度業績予想[単体]

	平成19年度予想		増減率
	億円	当初業績予想比	
業務純益	330	△ 240	△42%
経常利益	330	△ 170	△34%
当期純利益	150	△ 150	△50%
信用コスト	100	+ 40	+66%

○業績修正の理由

- ・有価証券に関する損失+200億円(うち第3Qで103億円処理済、さらに第4Qで97億円追加処理見込)
サブプライム問題を契機とする金融市場の影響を勘案し、保守的に追加損失を見込む。
- ・信用コストの増加+40億円(うち第3Qで27億円処理済、さらに第4Qで13億円追加処理見込)
貸倒れ増加に備えた引当金の増加を見込む。

<参考>

○業務粗利益の推移(参考)

	億円		
	19年度予想	18年度	17年度
業務粗利益	1,060	1,235	1,239
うち資金利益	1,077	1,056	1,067
うち役務取引等利益	156	160	147
うち国債等債券損益	△ 194	7	8
信用コスト	100	12	129

○業務粗利益の状況

国債等債券損益の大幅な減少等特殊要因により、業務粗利益は、一時的に減少。

○20年度以降の見通し

預貸金取引に関する資金利益と役務取引等利益はこれまで同様堅調に推移。

来年度以降、利益水準の改善を見込む。

株主還元方針

19年度も、従来公表通りの株主還元を実施する。

(還元方針: 配当性向20%以上、還元率40%以上)

配当金は年間8円(配当性向は42%程度)、株主還元率は100%程度を予想。

○株主還元の推移

	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度予定
取得株式数(千株)※	6,508	24,401	4,122	9,955	20,815	15,000(上限)
取得価額総額(億円)※	21	81	18	72	145	111(上限)
消却株式総数(千株)	—	—	—	13,000	15,000	15,000
自己株式数(千株)	5,933	30,154	33,845	30,466	35,931	〇〇,〇〇〇
配当金総額(億円)	43	41	49	49	56	63
1株あたり配当(円)	5.0	5.0	6.0	6.0	7.0	8.0
単体当期純利益(億円)	83	228	261	247	261	150
株主還元率(%)	77.1	54.2	26.2	49.2	77.0	100%程度
配当性向(%)	51.3	18.4	19.1	20.0	21.6	42%程度

※実績は、単元未満株を含む。

(注)株主還元率=(自己株式取得総額+配当金総額)÷単体当期純利益